

課題番号3

課題名	<b>重点課題2 地産地消を支える農業者の育成と生産の振興</b> 南河内GAP推進に向けた取組	
対象： 経営発展志向農業者37名	計画期間：H29～33	
	事務所名：南河内農と緑の総合事務所	
普及課題	活動方法	活動成果（達成率）
GAPの推進	①GAP指導體制の強化 職員のJGAP資格取得、ほ場巡回等支援 ②指導資料の作成・充実 実例収集、指導マニュアル作成 ③JGAP講習会開催・個別指導	JGAP認証件数5件(100%)

総合評価（コメント）	
<p><b>A：4名      B：3名</b></p> <p>■南河内管内でのGAP推進に向けた取組とはいえ、管内だけでなく、他地域への波及効果も含めて今後の展開（見える化）に期待したい。</p> <p>■GAPについては全国的にも議論がある中で、対象を絞って指導しており、自らの経営、作業工程を見直す効果を対象農家自身が気付いている。経営管理に効果があり、蓄積されれば波及効果がある。</p> <p>■小規模農家が「GAPは費用対効果が低い」と考えるのはある意味当然。したがって、GAPを「する・とる」に分けて推進する方向性は正しいと思われる。</p> <p>■よく頑張っておられる。GAPの対象者を決めて推進に邁進してほしい。ただし、数字だけ追わないで地道に認証取得を。その後は経営改善に役立ててほしい。</p> <p>■農業振興の観点から素晴らしい。ただ、JGAPやGJAP取得となるとコスト負担が大きい。農家にとって理想的な着地点がきっちり見出さなければと考える。</p> <p>■GAPは仕組みの上でもコストの上でも持続が困難と言われており、納品先などからの要望がなければ自己満足でしかないというのが実情であると思われる。その中においては継続することの意義やモチベーションをあげるための施策も必要であると思われる。</p> <p>■GAP認証の数を増やすことよりも、GAP手法を取り入れることが経営改善やリスクマネジメントの上で農業者にとってのメリットとなることを広く伝え普及させるべき。</p>	

評価 A: おおむね適切である。 B: 部分的に検討が必要である。 C: 見直しが必要である。

普及指導計画への反映状況等	
<p>■JGAP認証取得農家をモデルとした現地講習会の開催により、リスクマネジメント等を含む経営改善事例を受講者に伝え、他地域も含めた波及効果を図る。</p> <p>■GAPによる経営改善が図られコストが見合う農家等を対象に、JGAP認証支援を行う。</p> <p>■今までの活動で蓄積したノウハウをベースに令和2年3月に作成した「GAP実践マニュアル」をもとに、GAPのメリットを広く伝えるとともに経営規模・課題に応じたGAPの「する（どこまで「する」か含む）・とる」を推進していく。</p>	